



月刊宮司プレス第二百二十一号

彦島八幡宮 宮司ニユース  
発行者 彦島八幡宮  
宮司 柴田 宜夫  
発行 令和六年 十月三十一日

◇宮司の柴田です。お待たせしました、「月刊宮司プレス」第二百二十一号の発行です。来

月の七日は、「立冬」です。私共は、「立夏」

「立冬」で、衣替えですので、いまだに、夏物

の装束で御奉仕申し上げますが、違和感

なく、むしろ、季節にマッチ、調和しているのです。これを喜ぶべきか、「地球温暖化」の悪

しき影響と憂うべきなのか、複雑な心境であります。

◇さて、十月は、当宮をはじめ、宮司を兼ねている六連島八幡宮、さらに、田の首八幡宮の例祭を御奉仕申し上げます。裏面に写真を掲載しています。一年で一番大切なお祭りであり

りますので、神社本庁より「幣帛料」が下賜さ

れます。おかげをもちまして、滞りなく厳修

すること叶いました。

◇明治維新が理想とし、お手本にしたのが、

建武の中興です。その偉業を成し遂げられ

たのが、後醍醐天皇です、その後醍醐天皇は、

御製（天皇陛下が詠まれた和歌のこと）に、

「みな人の 心をみがけ ちはやふる

心の鏡の くもるとききなく」と

詠まれています。どんな時にも、神様の心がくもりなく、澄み切っているように、われわれ

の心もそのようになりたいものだ、諭されて

います。そのためには、神様の心に近づく暮

らし、つまりは、敬神生活を心掛けなければなりません。私は、毎日や季節毎の「祭り」

は、心の浄化装置だと考えています。心の炭

酸ガスを吐き出して、神様の清らかな風を心に送りこむ、「心の深呼吸」が「祭り」で、過日の

例祭こそは、一年で一番の「最大深呼吸」といえるでしょう。目にみえない大きな力、背後

の力によって、「生かされて生きている」ことの

自覚を取り戻し、謙虚に自分に向き合えるのが、「心の深呼吸」、後醍醐天皇が諭された、「心をみがく」、「祭り」なのです。この「生かされて生きている」ことを、私共の御先祖様は、感謝の心を寄せて、「おかげさま」という言葉であらわしました。

◇詩人の坂村真民さんの詩に、「尊いのは足の裏である。一生人知れず、一生汚い所と接し、黙々とその務めを果たしてゆく足の裏的な仕事をし、足の裏的人間になろう。足の裏から、光が出る」とあります。「背後の力」、「裏からの光」、「おかげさま」を信じる生活こそ、敬神生活で、神様の心に近づく暮らしではないでしょうか。

◇不都合な出来事を他人や時代や景気のせいにした、思い通りにならないからといって、「運」のせいだったり、「仕方がない」とあきらめてしまつては、未来は何も変わりませんし、暗い方向へと引きずられてしまいます。「〇のせい」だけにしている、主役は向こう側で、知らず知らずのうちに、自分自身は脇役になつていきます。やはり、「背後の力」、「裏からの光」、「おかげさま」を信じて、何事にも感謝することが大事です。「感謝すること」は、自分自身の人生を主体的に生きることにもつながります。日々生じる苦しさ辛さのなかにも「感謝できること」を見出そうとする営みは、

「〇〇のせい」という脇役の生き方から、主役の生き方に、シフトチェンジが可能なのです。

やすおかまきひろ

◇哲学者で思想家の安岡正篤さんは、「遇得謂幸 自造謂福」、「たまたま得るを幸いといい 自ら造るを福という」とおっしゃいました。巡り合わせがよく、偶然得られたものは、「幸い」で、一方、自ら努力して積み上げていくものは「福」であると諭されました。「運」は、「めぐる」とも読めます。「幸い」に感謝する主役の生き方で、「運命は自ら招くもの」、前向きに努力を怠らない敬神生活を心掛け、「福」を積み上げていきたいものです。ご自愛くださいませ。

◇十月の祭典行事報告(予定も含む)

▼月次祭

- ◆本宮 \*十月一日、十五日
- ◆貴布祢神社 \*十月一日
- ◆六連島八幡宮例祭 \*十月四日～五日

◆田の首八幡宮例祭



\*十月十二日～十三日



◆明神社例祭 \*十月十五日

◆舞子島八幡宮例祭 \*十月十八日

◆彦島八幡宮例祭

\*十月十九日～二十一日



◇十月宮司動静

▼神社関係団体

- ◆サイ上がり神事練習会 \*十月十三日
- ◆彦島リーグ監督会議 \*十月二十六日

▼神社庁関係

- ◆神社関係者大会 \*十月七日
- ◆講演講師養成研修会 \*十月二十一日
- ◆神社庁役員会 \*十月二十一日
- ◆支部長事務局長会議 \*十月二十二日
- ◆臨時協議員会 \*十月二十二日
- ◆教化部代表者会議 \*十月二十九日

▼自治会、学校関係、その他

- ◆西山小学校あいさつ運動 \*十月十日
- ◆迫町自治会役員会 \*十月十六日
- ◆西山小学校避難訓練 \*十月二十九日
- ◆教誨活動 美祢社会復帰促進センター
- ◆入所時講話 \*十月二十四日

